ぐるり しょうばら カメラレポート

各地で行われたイベント＆話題を紹介するコーナーです。

夏山シーズン到来！

比婆道後帝釈国定公園で山開き

夏山シーズンの到来を告げる山開きが５月27日から、比婆道後帝釈国定公園の比婆山・吾妻山・道後山でそれぞれ行われました。夏山登山の安全を祈願する神事やイベント、特産品のバザーに、多くの登山客らでにぎわいました。

比婆山（1264m）山開き

５月27日、西城町竜王山キャンプ場広場で行われ、広島市や福山市などから約500人が訪れ、さわやかな風と山の空気を満喫しました。

比婆山・田植え踊り

地元住民による田植え踊りや西城川太鼓の演奏、地元同好会による比婆荒神神楽が披露。また、地元自治振興区による特産品のバザーもあり、比婆牛のバーベキュー、ゴギの塩焼き、地元で栽培された古代米のおにぎりやもちの販売がありました。

近くの立烏帽子山（1299m）や池の段（1280m）など、ぐるりと取り巻く山々の稜線と青い空、心地よい風に「気持ちいいねー」と登山客は歓声をあげていました。

吾妻山（1239m）山開き

６月３日、８合目付近に設けられた会場で行われ、約2,500人が訪れました。

吾妻山・バイ流し

地元住民によるバイ流しや凧揚げ、神楽など、たくさんのイベントが行われました。また、会場の一角には広島牛ももの丸焼きコーナーなどが用意され、多くの買い物客が行列をつくりました。

登山客は「毎年、山開きを楽しみにしている。いつ来ても吾妻山の絶景を見ると、すがすがしい気持ちになる」と話していました。

道後山（1269m）山開き・つつじ祭

６月17日、西城町三坂の月見が丘山頂で行われました。

鳥取県など遠方からの登山客ら、約2,000人が訪れ、赤く咲いたレンゲツツジや満開のタニウツギなど、道後山の自然を楽しんでいました。

岩樋山や道後山山頂のレンゲツツジは、これから見ごろを迎え、多くの登山客でにぎわいます。

道後山山頂の登山客

健康や福祉をテーマにイベント満載

２００７健康福祉まつり

健康福祉まつりが５月27日、庄原市総合体育館をはじめ５会場で開催されました。

メイン会場の体育館前では、市内で活動する団体のステージ発表や餅つき、風船で遊ぶシャンピーバルーンなどが行われ、子どもから高齢者まで多くの人が来場しました。来場者は、血糖測定や骨密度測定などの健康チェックや各種相談コーナーで、自らの健康状態を確認。また、スポーツイベントやフリーマーケット、作品展示販売など多くのイベントを巡り、楽しんでいました。

健康状態を確認

ステージ発表

百まで働こう会が庄原に集う

百働会全国総会

第52回百まで働こう会全国総会庄原大会が６月６日、かんぽの郷庄原で行われ、庄原市や広島市をはじめ、遠くは青森県八戸市から42人の会員が参加しました。

総会終了後、田中虎市さんが「土に生きた足跡」と題し講演。これまでの人生経験を踏まえながら、日本の農業の問題点を指摘しました。また、懇親会や市内を巡るツアーで、参加者の交流を図りました。

現在、庄原支部の会員は21人で、人生は希望と興味を持つことが肝心、青春を忘れないようにしようと活動しています。

田中さんが講演

庄原支部の会員が田園文化センターなどを案内

太鼓の鼓動に感動

太鼓ライブＴＯＪＯ

広島県太鼓連盟設立１周年を記念して「太鼓ライブＴＯＪＯ」が６月９日、東城町老人福祉センターで開催されました。

近隣市町の太鼓グループ「鬼神太鼓」や「口和備神太鼓」、「やまびこ太鼓」など５団体が出演したほか、「播州新宮越部太鼓」がゲストとして出演し、迫力あるばちさばきを披露しました。

グループの中には、太鼓とフルート、太鼓とピアノ・尺八のセッションなど、新しい形の太鼓演奏もあり、その音色に子どもからお年寄りまで約350人の観客が酔いしれました。

広島県太鼓連盟の今岡会長は「観客の皆さんの拍手や歓声で、感謝の気持ちで胸がいっぱいです。演奏した私たちの方が感動しています。来年は、もっとよい演奏を皆さんに披露できるよう日々の練習を重ねたい」とお礼と決意を述べました。

東城の鬼神太鼓

エゴマ理想郷（ユートピア）をめざして

全国エゴマサミットin庄原

総合体育館が参加者でいっぱいに

第８回全国エゴマサミットが５月23日・24日の両日、庄原市総合体育館などで行われ、全国からエゴマ栽培者ら約500人が参加しました。

「生活習慣病予防に大きな効果があるエゴマの栽培を広めよう」と、庄原市エゴマ生産普及協議会などが誘致。23日は金城大学の奥山治美教授による講演「エゴマによる健康増進のために」や実践実例発表、エゴマを使用した加工品の展示・販売が行われました。24日は会場をかんぽの郷庄原に移し、シンポジウムや試食会などが行われました。

今後、市民の健康増進をはじめ、農地の荒廃防止やエゴマ油を中心とした特産品の開発・販売が期待されています。

エゴマの加工品を販売

都市住民と里山保全

「ぼにばなの丘」草刈体験交流

草刈りに汗を流す

6月9日、比和町三河内地区で草刈体験交流会が開催されました。

この交流会は、比和地域に自生している希少植物「ヒゴタイ」を保全し、次世代に継承していくことを目的として、比和地域の住民グループ「ヒゴタイの会」が企画し、福山市などから約20人が参加しました。

もちつきを楽しむ

参加者は、ヒゴタイが植栽されているほ場の草刈りに1時間ほど汗を流し、その後、囲炉裏のある古民家に場所を移して、もちつきや地元の山菜料理を囲んだ交流会を行いました。

ヒゴタイの会会長の山中卓美さんは「日本のあちこちで見ることのできたヒゴタイも今では、広島、大分、熊本でしか見ることができなくなった。こうした交流会を通じて私たちの活動に共感していただける人たちがいることが分かりうれしい。今後も、ヒゴタイの保全活動などに取り組みながら、美しい里山を守り育てていきたい」と話していました。

看護や生命に理解と関心を深める

西城市民病院が「ふれあい看護体験」

地域住民と医療関係者が交流し、医療や看護のあり方を共に考えていくきっかけをつくろうと、西城市民病院は5月16日、「ふれあい看護体験」を実施しました。

5人の参加者は、「人格を尊重し、声をかけてから」などと、職員に教わりながら介護や食事介助を体験。おむつ交換や体位の変換、寝間着の交換を、交代でモデルになりながら実習したり、患者さんのテーブルに一緒に座って食事のお手伝いをしたりしました。

午後は、庄原消防署西城出張所の指導で、「心肺蘇生法」と「AED（自動体外式除細動器）の使用」を学びました。

参加者は、「誰もがいずれ体験することだと思い参加した。おむつの換え方など、とても役に立つと思う」「自己流で介護していたが、参加して体位の変換の時の立ち位置など参考になった」と話していました。

寝間着の交換を学ぶ

一緒に学び・楽しみ・地域を元気に

西城まちづくり大学が開校

シャンティヨーガで体を伸ばす

今年で11年目を迎える西城まちづくり大学の開校式が5月22日、西城公民館で行われ、今年度の講座がスタートしました。

西城まちづくり大学は、西城町内の50歳以上の方を対象に、講演会や社会見学など、年間5回の講座を通して、一緒に集い・学び・楽しみ・地域の元気となることを目指しています。

今年度の受講生は101人。この日行われた第1回講座は、人間幸学研究所所長和田芳治さんの講演「元気の出る話」と矢吹洋子さんによるシャンティヨーガ。講演で「笑顔とありがとうがあふれるまちづくりをしよう」と呼びかけられ、元気をもらった参加者は、ヨーガで体と心をのびのびと伸ばしていました。

明るい社会づくりに貢献

小鳥原みどりの少年団と高南小が全国表彰

小鳥原みどりの少年団と育成会

高南小学校の児童と先生

㈳日本善行会が主催する平成19年度春季善行表彰式が5月26日、東京明治神宮で行われ、「環境美化」部門で小鳥原みどりの少年団が、「自然と文化財愛護」部門で高南小学校が、それぞれ青少年善行表彰を受賞しました。

小鳥原みどりの少年団は、昭和56年から約26年間、毎月国道のごみ拾いと花壇の整備（花の植栽、草取り）、森林学習と植樹活動など自然保護と環境美化に努めてきました。

高南小学校は、平成13年からホタルの減少という地域の課題解決に向け、学校内でホタル幼虫と餌のカワニナの飼育や観察、また地域住民の協力を得て学校近くの河川でビオトープづくりを行うなど、ホタルの再生活動と河川美化活動に努めてきました。

永年にわたる善行運動が、明るく住みよい社会づくりに貢献してきたと高く評価され、この度の受賞となりました。

市出身の音楽家を招きコンサート

東自治振興区「ふれあいコンサート」

ふるさと庄原で演奏する伊達さん（左）

広島交響楽団から庄原市出身のバイオリニスト伊達万浩さんら演奏者6人を招き、東自治振興区が6月18日、東小学校体育館で「ふれあいコンサート」を開きました。

これは、音楽を通して世代間交流を図り、平和で豊かな住み良い地域を目指そうと昨年に続き2回目。東小学校の児童をはじめ、園児や地域住民など約260人が参加し、ハイドンやチャイコフスキー作曲のクラシック音楽から映画音楽や民謡メドレーなど、弦楽四重奏や木管二重奏による演奏を楽しみました。

庄原市出身の音楽家ということもあり、子どもたちは親しみと憧れの眼差しで見つめ、「千の風になって」など知っている曲の演奏に合わせて歌詞を口ずさんでいました。企画した自治振興区の役員は「一流の音楽を聴く機会を作り、情操教育の推進を図りたい。また、音楽で地域の心を一つにしたい」と話していました。

野鳥の保護活動など高い評価

帝釈小が地球環境保全功労者表彰

環境保全と環境美化への功績を称える平成19年度環境保全功労者等の表彰式が6月11日、東京都港区のホテルで行われ、帝釈小学校が地球環境保全功労者表彰を受賞しました。

帝釈小学校は、カワシンジュガイや野鳥の保護活動など、永年にわたり帝釈の自然に親しむ活動を続けてきました。自然のすばらしさや大切さを広く紹介し、「自然は友だち」の輪を広げていると、環境大臣から高く評価されました。

農地保全とそばの振興を図る
「農事組合法人ゆき」が設立

口和の「農事組合法人ゆき」設立式が５月20日、鮎の里公園で行われました。

この法人は４世帯５人が出資する担い手集積型で、経営面積は20ha。高齢化や後継者不足に悩む中で、農地の保全のため水稲と和牛飼育を中心とした経営に取り組み、地域住民とともに元気のある農業と地域づくりを目指します。

設立式では、代表の水本敏則さんが「法人と地域のさらなる発展を目指していく」とあいさつし、地元住民や市の関係者など22人が門出を祝いました。

祝賀会で記念撮影

伝統的な作業田植えを再現
布見作業田植え

約30人が田植え

５月20日、比和町布見地区で作業田植えが開催されました。

これは、布見地区住民が、しばらく途絶えていた地域の伝統行事「作業田植え」を復活させ、地域に元気を取り戻そうと企画し、今年で4回目を迎えました。

田植えの安全を祈願した後、飾りつけられた牛による代掻(しろか)きが行われ、早乙女たちによる田植えが始まりました。比和調子の歌に合わせて地元住民や出身者など約30人が早乙女となり、息を合わせて植えていました。

比和自治振興区役員の梅津孝晴さんは、「この作業田植えを通じて地域の出身者たちとの交流を図り、定住促進につなげたい」と話していました。

保育所から学ぶ楽しい農業
田森保育所が「田植え交流会」

一列になって田植え

食物を作る楽しさや収穫の喜び、食物の成り立ちを伝えていこうと、東城の田森保育所とＪＡ庄原女性会の「田植え交流会」が５月23日、東城の田森保育所で行われました。

園児たちは、保育所の庭にある田んぼに入って大はしゃぎ。泥だらけになりながら田植えをしました。また、昨年収穫した赤米や園児たちが収穫した山菜などを使用して、昔から伝わる田植えごちそうを作り、園児は「釜についたおこげがおいしい」と言いながら、笑顔を振りまいていました。

秋に収穫するお米は、おこわやおもちにして、地域住民との交流行事に使用する予定です。

環境芸術を体感
総領の「なかつくに公園」

灰塚ダムの整備に合わせて、ダムの上流部にある総領町稲草に完成した「なかつくに公園」が、「新たな風景を楽しむことができる公園（庭園）」として評判です。

これは、ダム周辺の広大なエリアを「アースワーク」という現代美術の視点から、自然と文化の調和した永続的な魅力をもった公園にしていこうと、これまで行政をはじめ地域住民と芸術家・建築家が共同作業を行ってきました。

園内には田総川の親水面・大小の築山があり、その起伏と散策する人の身長のトリックによって風景が突然無くなったり、突如現れたりするような体験ができます。

詳しくは、総領支所地域振興課（☎0824-88-3060）にお問い合わせください。

東城の自然や歴史を学ぶ
小学生が「いきいき体験学習」

５月17日・18日の両日、東城町の自然や歴史を学び、児童の交流を深めようと、東城町内５小学校の５・６年生67人が「東城町いきいき体験学習」を行いました。（６年生は内堀小学校のみ）

初日は、削岩機メーカーを見学。児童は工場内で作業員が施盤機で部品を削ったり組み立てたりする様子を見て、「削岩機１台の値段は」「どうやって使うのですか」などと質問していました。また、町中心部を一望できる千手寺では、城下町だった町並みを見下ろしながら、東城の歴史について学習しました。

２日目は、国定公園帝釈峡で、野鳥観察や白雲洞・雄橋などを学習するフィールドワークや時悠館の見学を行いました。

削岩機メーカーを見学

実践英会話で異国の文化にふれる
高野中が「イングリッシュデイ」

ラウンドザ・ワールド・ゲームを楽しむ

高野中学校（生徒62人）が６月８日、外国人英語指導助手６人を招き、一日中英語に触れる「イングリッシュデイ」を行いました。

今年は、庄原格致高校高野山分校２年生５人と高野小学校６年生22人も参加。

ラウンドザ・ワールド・ゲームでは、各教室が外国人英語指導助手の出身国という設定で、６つの国を訪れてその国のクイズに答えていきました。生徒は外国人英語指導助手が出す英語の質問に答えながら、その国の文化に触れ、実践英会話を体験しました。

体育祭で地域の親睦を
口和体育祭

小・中学生のリレーには地区を越えて大きな声援が

口和体育祭が６月10日、口和総合運動公園で開催されました。

合併して３回目となる体育祭は、口和町民の親睦を深めようと、地区対抗で競技が行われました。大縄跳びには息のぴったり合った掛け声が飛び、竹馬に苦戦する姿には、多くの歓声と笑い声で盛り上がりました。また、地区の名誉と誇りをかけた地区対抗リレーは、各地区が1つになって応援し、激走するランナーを後押ししました。

総合成績は、優勝・宮内、準優勝・永田、第３位・大月でした。

山菜を見て・触れて・食べて
吾妻山で山菜交流会

比和町観光協会は５月20日、吾妻山で山菜交流会を開催しました。

広島市などから参加した50人は吾妻山の麓をウォーキングしながら、地元ガイドによる高山植物などの説明を熱心に聞き入っていました。

昼食は比和町観光協会が用意した手づくりの竹製の皿と箸で、炊き込みごはんや天ぷら、お汁にしゃぶしゃぶと、山菜づくしの料理をいただき大満足。

参加者は「おいしい空気をすって、おいしい料理を食べて、山菜の勉強も出来て、とても有意義なひとときだった。また機会があれば参加したい」と話していました。

吾妻山をウォーキング